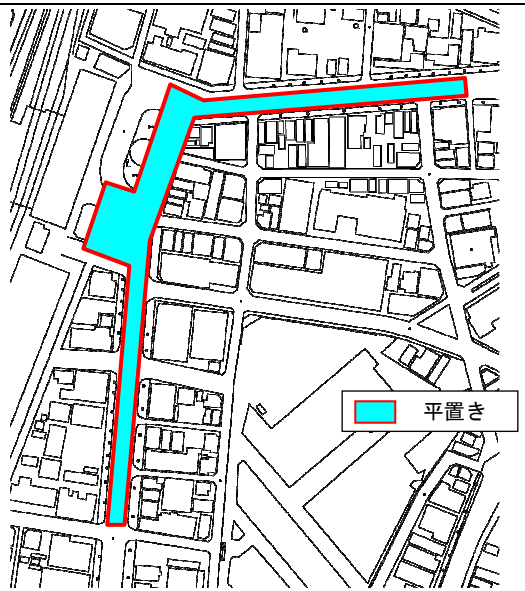
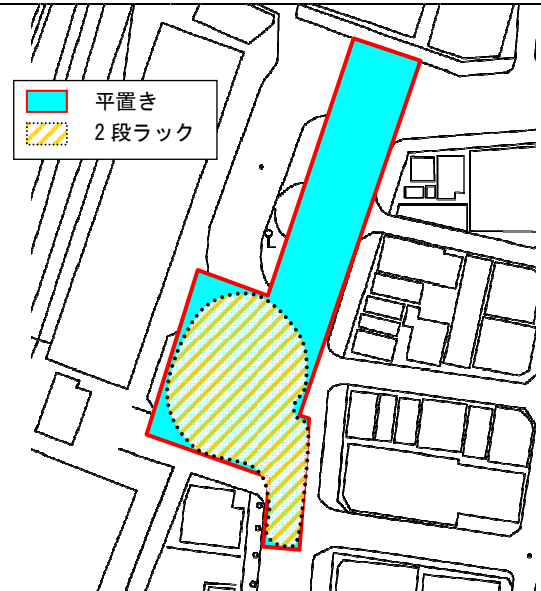
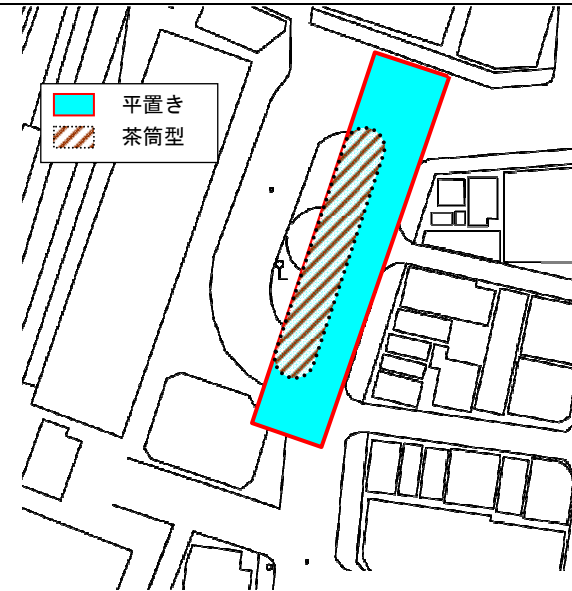
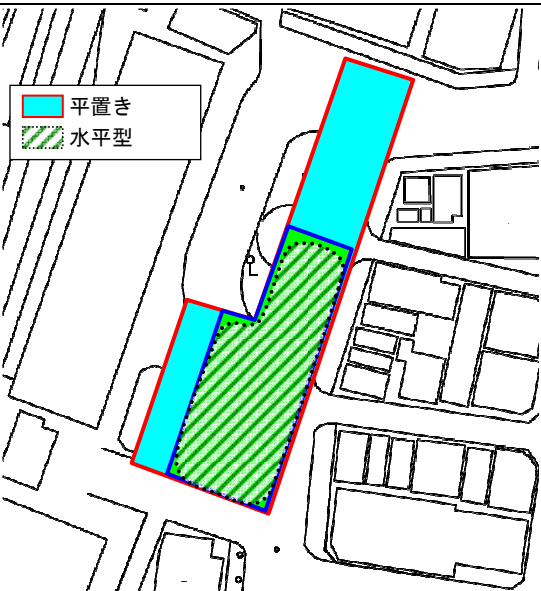


## 6. 基盤施設計画の検討 (2) 自転車駐車場

### ④ 公共自転車駐車場のケーススタディ

駅前広場整備に合わせ、南側の拡張を想定した公共用地範囲での駅前広場地下を活用した自転車駐車場整備についてケーススタディを行った。

#### 1) 東口駅前広場地下公共自転車駐車場のケーススタディ

	自走式		機械式	
	A 案 平置きのみ	B 案 2段ラック+平置き	C 案 茶筒型+平置き	D 案 水平型+平置き
平面図				
収容目標台数	平置き 約 2000 台 合計 約 2000 台	2段ラック 約 1500 台 平置き 約 500 台 合計 約 2000 台	茶筒型 約 1800 台 平置き 約 200 台 合計 約 2000 台	水平型 約 1000 台 平置き 約 1000 台 合計 約 2000 台
延床面積	約 3,500m <sup>2</sup>	約 3,000m <sup>2</sup>	約 2,000m <sup>2</sup>	約 4,400m <sup>2</sup> (B1 約 2,800m <sup>2</sup> B2 約 1,600m <sup>2</sup> )
長所	・どのようなタイプの自転車(電動式・チャイルドシート付)でも駐輪できる	・駅近くに集約できる ・他案より施工が容易	・駅近くに集約できる	・駅近くに集約できる
短所	・目標台数を確保すると広範囲になる ・場内の移動距離が長くなる	・上段が利用しづらい	・機械駐輪器工事では地上部交通に支障がある ・イニシャル、ランニングコストが高い ・機械式は事前に車体の登録が必要	・イニシャル、ランニングコストが高い ・機械式は事前に車体の登録が必要

#### 2) 今後の課題

##### ① 自転車駐車場の整備

- ・駅前広場地下設置位置等の詳細を検討すること。
- ・設置位置や買物等の利用目的、周辺自転車駐車場の利活用を踏まえて、収容目標台数については、約 2000 台からさらに精査、検討すること。

##### ② 自転車走行空間

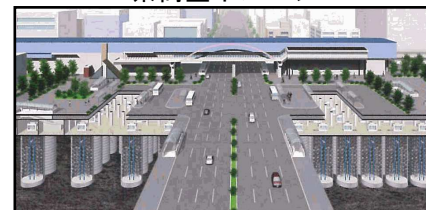
- ・自転車駐車場までの主要なアクセス道路における自転車走行環境の整備を検討すること。
- ・自転車対策重点地区の自転車走行空間の整備を促進すること。

##### ③ 駅前広場における歩行者との錯綜の抑制

- ・駅前広場の安全な歩行者空間を確保するため、自転車駐車場出入口設置位置等、自転車の流入抑制について検討をすること。
- ・駅前広場周辺での押し歩きゾーンの導入の検討をすること。

#### 【機械式地下自転車駐車場イメージ】

##### 茶筒型イメージ



##### 水平型イメージ



出典：JFE エンジニアリング資料

#### 【駅前広場地下自転車駐車場整備効果事例（江戸川区葛西）】

名称：葛西駅地下自転車駐車場  
形式：地下一層機械式（茶筒型）併用自走式  
面積：5600 m<sup>2</sup>  
収容台数：9400 台  
事業期間：平成 16 年～平成 19 年度  
放置自転車調査結果：供用前 2156 台（平成 13 年）⇒供用後 272 台（平成 20 年）  
※自転車駐車場の完成に合わせて放置自転車の撤去、集積所業務の拡充、啓発活動等の総合自転車対策を実施



資料：全国街路事業促進協議会資料